

花は我々の生活の中で、安らぎやうるおいを与えてくれる。殺風景な部屋も花を飾ることによって華やかになるが、島原本村の山崎広志さんは花づくり（バラの水耕栽培）を生涯の仕事と決め、打ち込んでいます。数ある園芸農業からなぜ、バラづくりを選んだかというところ「栽培しやすいという事と、綺麗で、花の中で一番好きだから」と言う。採算を考えると、土耕では何年も栽培していると土が痩せて「育たなくなるので、水耕でない」と難しい。現在、五百坪のハウスで栽培しているが、養分を含んだ水を流したり、防除などはコンピューターによって自動制御されている。近代的な農業経営といえる。



写真/山崎広志さん。枝を曲げて「アーチング栽培」の作業をしているところ。ハウス栽培だと、一年間に5~6回の出荷ができるそうだ。仕事を離れるとスノーボードとゴルフが趣味の23歳の好青年だ。

む広志さんという後継者にめぐまれたお父さんの一栄さんは、今後の町の農業について、「やはり水稲は衰退し、園芸農業に向かっていくと思います。都市部が近いという地の利を活かして、そうやっていかざるを得ないでしょうね。農家の親が意識

を変えて、子に園芸を進めるようにすれば、都市近郊型の農業が出来るようになると思います」とおっしゃる。山崎さんの場合は、いち早くバラづくりを広志さんに進め、その準備として、花全般を覚え出荷の時のつなかりを持つため、広志さんを花

現在栽培しているのは、ローテローゼという赤いバラで、アーチング栽培という方法で栽培している。「枝をアーチのように折曲げて、その枝にできる養分を新芽にやるようにするんです。そうすると通常では考えられない大きな茎が出て、そこから大輪の花が咲くんです」この栽培方法は、発案されてから五年位しか経っていないので、多くのバラづくり農家は、この方法に切り換えている段階だという。

次代の農業の担い手が育たないと  
いわれる昨今だが、バラづくりに励

ほんの一冊

「怪物の王国」  
倉本 四郎 著  
筑摩書房 1988

伝説等の想像上の怪物を、絵画と図版で紹介した博物誌。1974年10月から76年3月までの『毎日中学生新聞』に連載されたものに加筆、ちくまプリマーブックとして出版された。澁澤龍彦と阿部謹也に影響を受けたらしい、と聞けばどの辺に興味があるか想像していただけるだろう。中学生を読者に想定してあるのでとても読みやすいが、中身は濃い。古今東西、人間の想像力が未知のもの恐ろしいものに与えてきた形をここまでたくさん見せられると、あたり前の物たちがつまらなく思えてくる。少し古い本ですが、図書館にあります。

(中山佳奈恵)

市場に勤めさせた。また、栽培方法を学ぶために愛知県の栽培農家に二年間、研修に行かせたという。さらに、「安いバラは外国から入ってくるので、国内では品質の良いブランド品を作る必要があります。そのためには、設備が必要で、国内で栽培する人は限られてくるので見直しはあります」とおっしゃる。

「収益性を考えて、現在の面積で一、二年うまく回転したら、面積を増やしていきたい。最終的には二千坪位にしたいですね」と広志さんは、今後の目標を語ってくれた。一日も早く、品質の良い山崎ブランドのバラが市場に出荷されることを期待したい。果崎町の明日の農業の担い手としてガンバレ、山崎さん。

（人の動き）

2月末日現在	(前月比)	前年同月比
人口	24,243 (+33)	(+161)
男	11,878 (+12)	(+63)
女	12,365 (+21)	(+98)
世帯	6,984 (±0)	(+199)
2月1日~末日		
出生	23	転入 73
婚姻	23	転出 52
死亡	11	



先日、スーパーマーケットで買物をしていると、「菜の花のからしあえ」という文字が目にとまり、思わずカゴの中に入れてしまった。この原稿を書いているのは、3月の末。長かった冬も終り、春を迎える季節ですが、その晩は、一足早い春の気分を味わいました。もう少しで、サクラや菜の花が咲きはこる季節、皆さんの家庭では、レジャーの計画はいかがでしょうか。▼今月号では、平成八年度の予算などを紹介しましたが、いかがでしたか。予算は、その年度の町の事業計画をたてるにあたって大切なもの。まだご覧になっていない方は、ぜひ目を通してください。

◎来月号では、議会三月定例会の様子などをお知らせしたいと思います。今年度も始まりました。今年度も広報くろさきをよろしくお願いたします。

